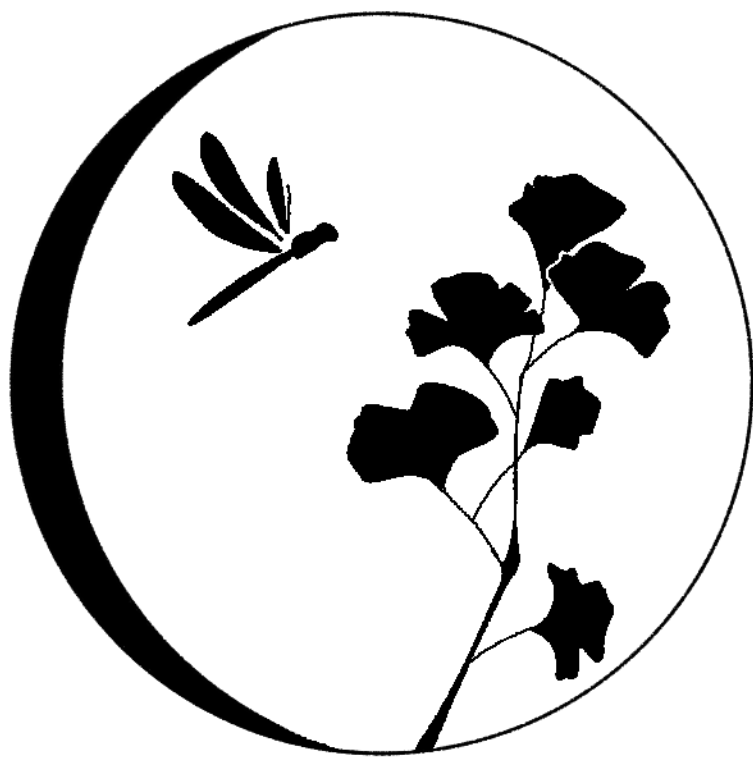


かげぼうし

令和7年 10月号



狐鵲堂

童心にもどるための謡

そういうものがあつたって良いと思う
という気持ちで、
原風景や幻想を書き残している。

つぎつぎ生まれた童謡たちは、
季節の背後に伸びてしまった、
さみしいさみしいかげぼうし。

黄色いもの

黄色いもの なあに

おやつ時間のガラス窓。

黄色いもの なあに

お庭にとまったカワラヒワ。

黄色いもの なあに

お墓でゆれる菊の花。

黄色いもの なあに

また来る朝のしおらしさ。

どんぐりひろい

森の玄関に狐のしつぽ

ひとつ ふたつ マテバシイ

森の書齋に鳥のペン先

みつつ よつつ コナラの実

森の広間に兎のビショップ

シラカシいつつ ブナむつつ

森が蒼みを増す前に

ななつ拾つて帰りましょう

かえりみちの秋

農家のもみがら香ってる

垣根の夕顔しぼんでる

どこかで白身の魚が焼けて

どこかは南瓜を煮つけてる

なにがこわいか知らないが

歩みはだんだん早くなる

本誌に収録された詩の無断使用および無断転載を禁ずる。



童謡小冊子「かげぼうし」10月号

発行日：令和7年10月15日

発行・著：入山夜鷗（狐鷗堂）

X(旧 Twitter)：@812_iri

Mail：yaits_bngk @ outlook.jp

Portfolio：potofu.me/812iri →

